

2 新しい産学・地域連携の推進

滋賀大学 理事・副学長 須江 雅彦

滋賀大学は、来年創設70年を迎えます。前身の教育組織を含め、滋賀大学は明治・大正期から社会の発展に不可欠な研究などの知的活動と新しい社会を担う人材育成に長年取り組んでまいりました。

大学の社会連携では、教育や研究の成果、或いは大学が有する様々な知的資源を、社会の抱える様々な課題の解決に結びつけ、或いは高度人材の養成などに貢献していくことが極めて大切です。

特に現代社会は変化のスピードが加速化しており、社会を担う私たちには、時代の変化に対応し、積極的に様々な課題に挑戦し、立ち向かう勇気が必要です。

滋賀大学は、第4次産業革命(Industrial4.0)や我が国社会が目指す Society5.0 を切り拓き、支えるデータサイエンティストの組織的育成を図るための専門学部、データサイエンス学部を2017年日本で初めて開設し、この分野の優秀な研究者を集め今や国内最高水準の教育研究センター拠点を形成しています。2019年4月には初の大学院データサイエンス研究科を創設し、企業や政府の DS 人材高度化に一層貢献してまいりたいと考えています。

私たち滋賀大学は、データサイエンス(DS)を横軸とする文理融合大学として、従来以上に企業などとの連携を推し進めており、既に40以上の企業等と新たに連携し、企業が抱える様々な課題解決のための人材高度化や共同研究、受託研究などを行っています。また DS 分野に限らず、広く社会の課題解決に応えるべく、社会連携を深めてまいりたいと考えております。

本年春、位田学長は、新入学生に対し、SHIGA-University は、

S = Sincere(誠実)

H = Humanistic(人間性)

I = Intelligent(叡智)

G = Generous(寛容)

A = Active(積極性)

U = Union(団結)+Universe(世界)

を表しており、「誠実さ、人間性、叡智をそなえよ。他者や弱者に寛容であれ。積極的に問題に立ち向かおう」と呼び掛けています。

知のシステムとしての大学と企業や自治体など社会との連携は、時に非常に実践的であり、また新しい発見への契機ともなります。私たちは、「知の結節点」として、今後とも人と人との繋がりを大切にしながら社会との連携を進めてまいります。

皆様の幅広いご理解とご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。